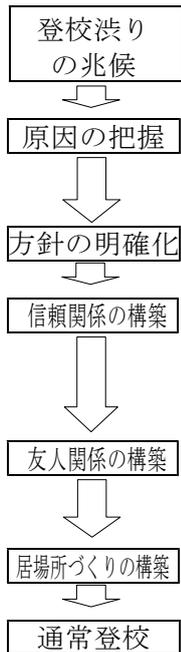
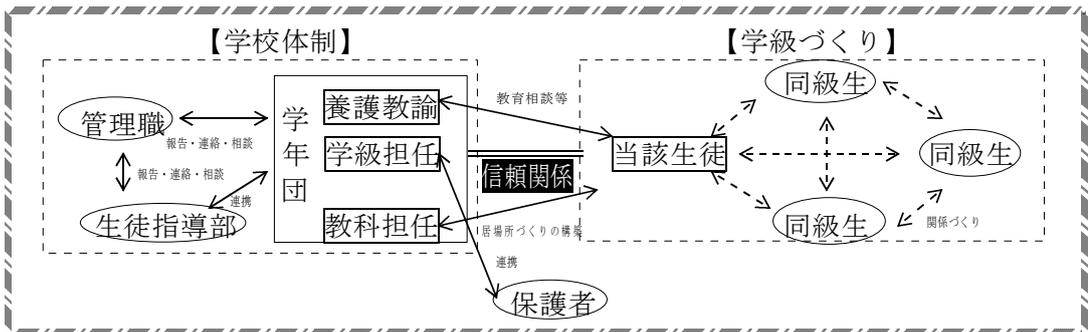


## 不登校児童生徒への対応事例10（中学校第3学年女子） ～役割分担を明確にしたチームとしての行動連携～

### 問題の把握

当該生徒は9月上旬の学校祭の準備のころから登校を渋るようになり、保護者が車で学校に送り届けても学校に入れないということが数回あった。保護者は、特定の原因や対応が分からず、当該生徒にきつく当たることがあった。学級担任は当該生徒に理由を聞いたが、当該生徒は、「学校に足が向かず、どうしても登校する気になれない。」と繰り返すだけであった。

### 対応状況



- これまで学級担任は、当該生徒の心の弱さを把握していたため、強い意志をもって、友人関係の問題を克服させようと指導してきた。
- 学校祭準備期間中における登校渋りであることから、養護教諭は、学級内の友人関係に原因があるのではないかと察知し、職員の打合せにおいて学年全体で当該生徒の様子について把握することを提案した。
- 当該生徒に対するこれまでの指導の経過から、主に養護教諭が当該生徒の話を聞くこととした。その結果、学校祭に向けた取組のグループ活動において、うまくいっていない同級生とのトラブルが登校できない原因であることが判明した。
- ケース会議を開き、チームとして、具体的に今後どのように対応していくのかを明確にした。
- 学級担任は、指導的な立場ではなく、当該生徒の気持ちに寄り添いじっくり話を聞く機会を設け、当該生徒の話を傾聴する姿勢を大切にした。
- 当該生徒と学級担任との距離が縮まってきたことから、学級担任が入って、うまくいっていない同級生との話合いの場を設けることとした。
- 当該生徒は、学校祭への自分の思いを同級生に話すことができたことや、同級生に対する誤解があったことを理解することで、次第に友人と関わりながら過ごせるようになった。
- 養護教諭は教育相談等、教科担任や学年付教諭は学習への意欲を高める指導等を行い、教室内での居場所を自分自身で自然につくれるように支援した。
- 当該生徒は、話ができる友だちができたことから、気持ちが安定するようになり、登校渋りはなくなった。

### 不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・ 生徒にとっての居場所は、学級の友人同士との関わりの中に存在することを意識し、生徒自らが友人との関係を築くことができるよう、学級担任と当該生徒だけではなく、学校がチームとして、生徒同士がつながる場や機会を設けるなどの対応を工夫することが大切である。
- ・ ケース会議の中で、具体的な事例を検証することを通して情報を共有し、学校全体でチームとして、今後どのように対応していくのかを明確にするとともに、学校としての方針を保護者へ説明し、家庭との連携を密にして解決していくことが重要である。